県外派遣審判員報告書

作成日　H30年　4月　30日

大会名	南九州四県対抗バスケットボール選手権大会	会場	宮崎市総合体育館，宮崎県体育館
期間	H30.4.27（金）～4.29（日）	報告者	隈元　ゆみこ

スケジュール

期日		内容	場所
4月28日（土）	13:30～	女子予選リーグ担当　藤蔭（大分）　対　鹿児島女子（鹿児島）	宮崎市総合体育館
	16:30～	女子予選リーグ担当　日章学園（宮崎）　対　鹿児島女子（鹿児島）	
4月29日（日）	15:00～	女子1位リーグ担当　日章学園（宮崎）　対　小林（宮崎）	宮崎県体育館

レクチャー・審判会議の内容

＜審判会議内容＞
実施せず

実技	割り当て	女子予選リーグ　藤蔭　対　鹿児島女子	(主)・副	相手	藤村　講平（宮崎）

〇ゲーム前（プレカンファレンス）
審判員の欠員が出たために，急遽割り当て変更となったため，ゆっくり時間をかけてのPGCはできなかったが，2POにおけるTの役割について（TとCの両方の役割を担わなければならないこと），いくつかのドライブプレイにおけるTとLの見方，プライマリ，2人の協力，クロック管理について話をした。また，新ルールでの実施ということであったため，トラベリング，UFについての確認をしてゲームにのぞんだ。

〇ゲームの実際
お互いのプライマリを意識しながら，プレイに対応して位置やアングルを工夫することができていた。ビックマンに対する守り方や足元，3sec等についても1ゲーム通して基準を示すことができていた。ドライブプレイに関して，身体の寄せ方やAOSについてはもう少し整理すべきであった。またプロテクトシューターについても，プレイを長くとらえて判定すべきケースがあった。EOP，EOGにおけるクロックのプライマリについて，2POの場合，ケースによってはLがScore/No-Scoreの判定をすべき場面もあるように感じた。

〇ゲーム後（ポストカンファレンス）　主任　なし
PGCで，いくつかのケースについて，Tのプライマリ，アングルの取り方等について話をしていたので，そこに対する対応が2人で協力してできていた。また，気になるケースについて，タイムアウト中やインターバル等でコミュニケーションをお互いにとりながらゲームを進めていくことができた。クロック管理については，特にEOP，EOGでどちらがプライマリであったほうがよかったのかという反省があった。クロックの位置やTがビジーならば，Lが判定したほうがよいケースもあった。

実技	割り当て	女子予選リーグ　日章学園　対　鹿児島女子	(主)・副	相手	齋賀　哲也（宮崎）

〇ゲーム前（プレカンファレンス）
2POにおけるTの役割(TとCの役割）について，1ゲーム目同様，基本的なことを確認した。また，3POとは違って2人しかいないので，足を使う必要があること，2人で協力すべきこと（3vs2，OOBの協力）やクロック管理等について確認を行った。新ルールでの実施であるので，トラベリングやUFについて，少し映像を活用して簡単に確認を行った。

〇ゲームの実際
1Pで，インサイドの攻防に対してDef，Offどちらにも笛が入ったことにより，クリーンにゲームを進めていくことができた。エリア3でのフレアスクリーンに対して，TとLがどのように協力していくか，2人でコミュニケーションを図りながら対応することができた。日章ベンチがアピールし続けること（3sec）に関して，クルーとして特に気にしてはいなかったものの，言わせつづけていることに関して，何かしらの対応が必要だったように思う。ワーニングに行くべきなのか，コミュニケーションですませるべきなのか，判断に迷う部分があり，そういった意味ではベンチ管理に関して課題の残るゲームとなった。

〇ゲーム後（ポストカンファレンス）　主任　上水　陽一（宮崎県B級）
1Pでインサイドの攻防に関して笛をいれたことで，このゲームは安心だと感じた。プレイの見方や笛の入れ方についても見ていて勉強になった。ベンチのアピールについて，県内では毎回のこと（留学生に対応するため，チームを鼓舞するための声でもあったりする）であるので，どのように対応すべきかということは考えていく必要があるかもしれない。バックコートバイオレーションに関するベンチの声（言い方）については，ワーニングがあってもよかった。

実技	割り当て	女子1位リーグ　日章学園　対　小林	CC U1・U2	相手	U1：川原（大分）U2：藪崎（熊本）

〇ゲーム前（プレカンファレンス）

3POメカニクスについて，T,L,Cの基本的な役割，クルーとして積極的なローテーションを行うことや，新ルールに関して，映像等を活用して確認した。また，EOP，EOGにおけるラストショットへの対応の仕方やクロックコミュニケーション，チームファウルの数などの確認の仕方，ベンチへの対応などについても話をした。カードが宮崎県での決勝カードということもあり，県高校総体へ向けての位置づけであること，インサイドでの攻防について，キーマンとなるプレイヤーについてお互いにもっている情報を共有してゲームにのぞんだ。

〇ゲームの実際

それぞれのプライマリでおこることに関して，お互いがしっかりと判定を下していったので，ゲームの流れを審判の余計な笛で遮ることもなく，最後まで激しい攻防があり，見ている側にも面白いゲームであったように思う。その中で，ローテーションすべきなのかどうなのか迷う場面があり，今回のクルーの中では，そういったケースの場合は，ノッキングしてしまうよりローテーションをしてしまおうという共通理解のもと実践することができた。ただ，やはりそこが中途半端になってしまった時に，それぞれいいアングルをとることができず，判定に迷う場面がでてしまったように感じた。クルーチーフとしてのコミュニケーションの取り方などもっと勉強・工夫すべきだと感じた。インサイドの攻防に対しては，オフェンスの手の使い方，ディフェンスの身体の当て方など気になる部分はあったが，1ゲームとおしてプライマリにいるRefが注視して捉えることができていたので，クルーとして良かった点であった。

〇ゲーム後（ポストカンファレンス）　主任　松浦　智光氏（宮崎県B級）

クルーとしてローテーションがスムーズにそして，積極的に行えていて，また，3人のコミュニケーションがしっかりなされていて，見ていてとても勉強になるゲームであった。インサイドの攻防について，どのように3人でとらえていたのか聞かせてもらいたい。観ている側としては，最後まで激しい攻防であったのでとても見応えのあるゲームであった。（この点については，3人それぞれの考えを伝えた。）パーミングについて，県内でもなかなか判定されることはなく，ゲーム後話題になるがどのように捉えていたか。（確かに気になってはいたが，ディフェンスを抜きさるケースがなかったので，判定は入れなかった。）

全体を通しての感想

2POにおいても3POにおいてもPGCの中で，基本的なことを確認することの重要性をあらためて感じることができました。いくつかの考えられるケースについて，事前に確認をしておくことで，2POでも3POでもそのメカニクスがうまくいけば（位置取りとアングル），しっかりとした判定につながることを感じました。

個人の一番の反省としては，ベンチ管理の部分です。ベンチアピールに対して，コミュニケーションのとり方やファウルをとりあげた際のプレゼンの仕方，立ち振る舞いなど，もっと工夫すべきであるということ，チャレンジすべきだったということを感じました。今回，県外派遣審判員も若手が増え，レベルも上がってきていると感じました。鹿児島県から派遣された若手メンバーも非常によく頑張っており，頼もしく感じました。鹿児島IH，鹿児島国体へ向けて自分自身のレベルアップはもちろんのこと，県内審判員の審判力向上のために尽力していきたいと思います。

最後に大変お世話になった宮崎県審判委員会の皆様，今回の派遣に御配慮いただきました原田審判委員長をはじめ鹿児島県審判委員会の皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございました。